

明けましておめでとつございます。

町民の皆さまには、輝かしく希望に満ちた初春をご家族おそろいで健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年中は、町政全般にわたりました、格別のご理解と温かいご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、政府は、「生産性革命」と「人づくり革命」の2つをアベノミクス最大の勝負と位置づけ取り組みを進めており、我が国の景気は、緩やかな回復が継続しております。

9月の自民党総裁選において安倍首相が3選を果たし、10月には第4次安倍改造内閣が発足したところであります。

一方で、地方自治を取り巻く環境は引き続き、少子高齢化・人口減少の顕在化に加え、東日本大震災以降続いている環境・エネルギー問題、EPA、TPPをはじめとする農業の国際化、交渉加速の兆しが見られる北方領土問題、沿線自治体の財政負担に伴うJR問題など、著しい変化が続いております。

昨年も日本各地では多くの自然災害に悩まされた一年であり、「西日本豪雨」をはじめ、9月6日には、北海道胆振地方中東部を震源として、最大震度7を記録した「北海道胆振

東部地震」が発生し、この強震動により広い範囲で土砂崩れが発生し、多くの住宅が巻き込まれたことから、41人の方々が亡くなり、負傷者も749人を数え、さらに住家の全壊409棟、半壊1262棟、一部破損8463棟と甚大な被害をもたらしました。

町といたしましても、災害復旧支援のため職員を被災地に派遣したところであります。また、この地震の影響により、道内全域が停電となる史上初のブラックアウトが起き、道民生活に大きな影響が出たことは記憶に新しいところであり、昨年の秋より数値目標なしの「無理のない範囲での節電」要請が継続されているところであります。

改めて、これらの災害により犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、一刻も早く被災地域住民の皆さんが安心できる生活を取り戻せることを願っております。

また、世界に目を向けてもグアテマラ噴火では100人以上が犠牲となり、インドネシアのスラウエシ島地震など自然災害が多発した年でもありました。

6月には、シンガポールにおいて史上初となる米朝首脳会談が行なわれ、両首脳は、相互の信頼醸成によって朝鮮半島の非核化を促進すること

を約束したところであり、その履行を強く望むものであります。



明るいニュースとしては、スポーツの部門では、2月に熱戦が繰り広げられた平昌オリンピックでは、日本選手が大いに活躍し、メダル総獲得数では過去最多だった'98年の長野オリンピックの10個を上回り、冬季オリンピックの日本代表としては史上最多の13個を獲得しました。

また、男子マラソン界では、10月のシカゴマラソンで大迫傑選手が、今年の2月の東京マラソンで設楽悠太選手が16年振りに更新した日本記録2時間6分11秒を、更に、21秒更新した2時間5分50秒の日本記録を樹立し、2年後に迫った東京オリンピックでの活躍に期待が膨らむなど若い力が飛躍した年でもありました。

年頭のご挨拶
佐呂間町長
川根 章夫

さらに、夏の甲子園で、県大会初戦から準決勝までの10試合を1人で投げ抜いた金足農高の吉田輝星君は、プロ野球ドラフト会議において、交渉権を獲得した北海道日本ハムファイターズへの入団が決定しました。

また、本町出身の玉井大翔投手は、中継ぎとして40試合に登板し、「来季は最低でも50試合は投げたい」との抱負を語っており、さらなる活躍を期待したいと思います。

2018新語・流行語大賞には、平昌オリンピックカーリング女子で銅メダルを獲得したロコ・ソラーレの選手が試合中に発した北海道弁「そだねー」が年間大賞に選ばれたところでもあります。

本町佐呂間高校の放送局と吹奏楽曲が、昨年11月に行なわれた全道大会と全国大会において、それぞれ好成績を収めたとの報告も受けたところでもあります。

また、昨年10月には、町内の各団体から推薦いただいた24名と一般から応募いただいた4名の計28名で組織する第5期佐呂間町総合計画策定審議会を設置し審議を開始いたしました。審議会には、これから約2年間にわたり精力的に審議をいただき、答申内容をまとめていただくこととなりますが、特色ある「まちづ

くり」を目指した計画となるよう、策定作業を進めてまいりたいと考えております。

昨年の佐呂間町を振り返りますと、農業においては、春の雪解けも早く、作物の生きついても順調に進み、農作物の生育は平年並みに推移しましたが、成長期の不安定な気温や長雨、日照不足などにより農作物全般に大きな影響を受けた年となりました。

酪農・畜産においては、8年連続の乳価値上げ、生乳生産につきましては、搾乳戸数の減少や胆振東部地震による大規模な停電による生乳の損失にもかかわらず、減少分を畜産クラスター事業実施主体者や規模拡大酪農家が補い、生産乳量は着実に伸びたことにより、当初計画を若干上回ったところであります。

農業全体の実績は、天候不順にもかかわらず、計画を若干下回る程度での販売額の確保となりました。

漁業においては、外海ホタテについては、計画を若干上回る水揚げで、養殖ホタテについては、生産数量はほぼ計画どおりとなっており、販売価格は、国内全体の水揚げ量の減少により高値で取引されました。さけ定置網漁業は、漁獲量は一昨年並みとなりましたが、小型漁であった

ことから単価が下がり、漁獲金額は前年を下回る結果となりました。

北海シマエビ漁は、資源保護のため禁漁となりましたが、本年におきましても、禁漁とすることが決定しており、早期の資源回復を期待しているところであります。

林業においては、国の補助制度を活用しながら継続的な森林資源の保全に努めたところであります。

商業・土木・建設関係においては、公共投資事業の下支えと民間事業の効果から好循環となり雇用促進につながるなど、町内での消費拡大にも明るい兆しが見えているところであります。

また、高齢化、核家族化の進展とともに、郊外の地域に住む一人暮らしのお年寄りが増加し、生活物資の調達や冬期間の除雪などに支障をきたしている状況から、低所得者でも入居が可能で、かつ、身体機能が低下した場合であっても住み続けることのできる2棟目となる「高齢者福祉住宅(安心ハウス2)」を建設し、昨年暮れより入居が始まっております。

今後、身体機能が低下した一人暮らしのお年寄りが安全で安心して生活のできる居住環境の整備向上

と、クリーンツクさるまを中心とした、将来にわたって安心して暮らしている地域医療の充実に全力で取り組んでまいります。

活力ある町政の発展と住民の負託に応えるため、総合的な行政の振興方策を推進することが肝要であり、町民一人ひとりが、町民憲章のもとに「英知と友愛と勇氣」をもって結集し、住みよい社会の建設に積極的に参加願うとともに、地域自らの発想と総意工夫により魅力あるまちづくりを進めるため、将来のまちづくりの指針となる第4期町総合計画の「心豊かで快適な暮らしを支えるまち」、「豊かな自然と人が共存する産業」、「ふれあいやすらぎのある社会」、「こころ育む魅力ある教育」を目標に、「青い湖と緑の大地 人が輝く未来のサロマ」の実現に向け、情勢の変化に対応しながら、住んでみたい、住み続けたいと考えていただいているまちづくりを目指し、地域経済の活性化と住民生活の安定向上に最大限の努力を傾注するため、私も町職員一丸となって全力で取り組んでまいります。

結びに、町民の皆さまにとって平成31年が実りある最良の年となり、皆さまが益々ご健勝でご活躍されますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年おめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい平成31年の新春を迎えられ心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国際的には、4月に11年ぶりとなる朝鮮半島の南北首脳会談や、6月には史上初の米朝首脳会談が開催と朝鮮半島での非核化の合意により、日本での脅威も少なくなることを期待する中、トランプ大統領のアメリカ第一主義に振り回されることもなく、海外交渉に対しては日本の毅然とした態度を望むところであります。

一方、国内においては、10月に第4次安倍改造内閣が発足しましたが、日本経済は回復基調にあるとは言うものの、その兆しはあまり感じられません。

また、昨年も多くの自然災害が発生しましたが、北海道では観測史上初となる震度7の胆振東部地震により、41名の犠牲者と、道内全域に及ぶブラックアウトが発生し、数日間渡り電気の使えない生活を余儀なくされました。犠牲になられた方々のご冥福と、被災者の皆さん方の一日も早い復興を願うものであります。

明るい出来事としては、2月の平昌オリンピックでは、フィギュアスケート羽生選手の2大会連続の金メ

ダルを始め13個のメダル獲得という活躍がありました。また、北海道日本ハムファイターズでは、夏の甲子園で金足農業ファイバーの主役、吉田投手の入団、また本町出身の玉井大翔投手は安定した活躍をし、年棒も大幅アップし、更なる活躍が期待されます。

さて、本町をかえりみますと、基幹産業の農業は天候不順により農作物は15%減の実績となり、また酪農畜産は、生乳、固体販売が堅調であり、農業全体では当初計画の3.4%の減となりました。

漁業については、外海ホタテ、養殖ホタテは順調でしたが、さけ漁については、漁獲量が落ちるなど、全体の水揚げ高は前年比98%となっております。

地域経済、雇用環境は依然として厳しい状況ですが、商品券発行などの各種施策により、町内消費活動の活性化が図られております。また、一昨年に引き続き、郊外のお年寄りが市街地で安心して暮らすことのできる「安心ハウス2」が建設されました。

さて、地方創生が叫ばれている昨今、地方を取り巻く環境は大きく変化しており、基幹産業の活性化対策、人口減少対策、少子高齢化社会に対応する医療・福祉政策等の充実が求められています。



このような中であって、議会としても地域住民が自らの判断と責任において、地域の諸課題に取り組んでいけるように、的確かつ適正な議会活動に全力を傾注し、その任を果たしてまいりたいと存じます。

今年も、町民の皆さんがご健勝で幸多い年になりますことをご祈念申しあげ、新春のご挨拶いたします。

年頭のご挨拶
佐呂間町議会議長
吉野 正剛